



あらすじ

雪がしんしんと降っています。
どこかで鈴が鳴っているような静かな夜です。

森のそばの小さな木こり小屋に、チルチルと
ミチルという二人の兄弟が住んでいました。

二人の家は貧乏という程ではありませんが、
お金持ちという程でもありませんでした。

さあ、明日は楽しいクリスマス!

でもこの家にサンタクロースは来てくれないかもしれません……。
窓の外のイブでぎわう街のあかりを、二人はうらやましそうに見つめていました。

その時、魔法使いのおばあさんが現れて、二人にこう言います。

「幸せの青い鳥を探しておくれ」……と。

「青い鳥」は、ベルギーの劇作家 モーリス・メーテルリンクが、1909年に発表した作品です。
楽しく歌い、踊りながら幸せの青い鳥を求めてチルチルとミチルの夢の旅はテンポよく続いて行きます。
主人公を通して様々な経験をし、幼い頃に受けた感動は、必ず成長の糧となるはずです。



劇団め組は昭和59年より“愛と感動を届けよう”と全国の会館や小・中学校に、世界の名作の巡回公演を開始しました。私達は全国の子供達に『愛とは、友情とは、そして勇気や眞の正義とは一体何か』等の人間としての普遍的なテーマを問い合わせていきたいと願っております。これからも江戸時代の火消し集团“め組”のように、若さと躍動感に溢れ、情熱と誇りを失わず、より良い作品をお届けいたします。

ヴェニスの商人



あらすじ

ポーシャ姫に恋する青年バッサーニオは求婚に必要な大金の借用を、親友でありヴェニスの貿易商であるアントニオに頼み込みます。あいにく手元にお金がなかったアントニオは、多額のお金をあくどい金貸しシャイロックから借りて、バッサーニオに渡してやりました。やがて、二人はめでたく結ばれます。

期限が近づいたある日、アントニオの商船が難破したとの知らせが入ります。アントニオは借金返済の当てがなくなりました。そこへ、かねてより彼に恨みを持っていたシャイロックは、証文をたてに彼を罠に陥れようとします。証文には、こう書いてありました。

「期限までに金が返せない時は、アントニオの身体から肉1ポンドをもらい受ける。」……と。
夫の親友の危機を知り、ポーシャは法律家に化けて裁判所に乗り込みますが、彼女の機転によってアントニオは救われるのです。

「ヴェニスの商人」は十六世紀イギリスの有名な劇作家ウイリアム・シェイクスピア(William Shakespeare)によって、1596～1597年にかけて書かれた作品です。この作品は日本で最も多く上演されたシェイクスピア劇であり、「真夏の夜の夢」「ヘンリー4世」と並んで、彼の書いた喜劇の代表作と云えるでしょう。